

フランスバロックにおける最も重要な音楽家のひとりであるシャルパンティエは、20代の数年間をローマで過ごしました。当時ローマには、オラトリオやカンタータによって広くヨーロッパ中に名を知られたカリッシミがおり、シャルパンティエもカリッシミから作曲を学んだとされます。師弟関係にあったふたりの宗教作品を並置することで、両者に共通する意匠やその技法を顕在化するとともに、シャルパンティエ作品の特徴とされるイタリア様式の源流を探求します。

オート＝コントル、テノール、バスによる男性三声のアンサンブルは、その濃密な響きで17世紀にとりわけ愛好されました。本公演では通奏低音にクラヴサンとヴィオールを迎え、テキストの持つ演劇性を鮮やかに描き出します。オフィスフレンチバロックによる最新作、他では聴けない充実のプログラムをどうぞお聴き逃しなく！

# LA JUMELLE ラ・ジュメル 第五回演奏会 カリッシミと シャルパンティエ

2022年12月16日(金)

18時30分開場 19時開演

会場 マリーコンツェルト

一般：4,000円 / 配信チケット：2,000円

チケットぴあPコード **228308**

文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

公式HP 



主催：オフィスフレンチバロック  
090-9131-4356  
office.frenchbaroque@gmail.com



オート＝コントル：小沼 俊太郎

haute-contre : Shuntaro KONUMA

北海道出身のテノール、尚美学園大学音楽表現学科、声楽コース卒業。同大学院修了。声楽を角丸裕氏に師事。これまで数多くのオペラに出演、宗教曲のソリストなどを務める。サンピエトロ大聖堂で行われた、日本バチカン修好75周年記念ミサにおいて、三枝成彰氏作曲によるレクイエムのソリストを務める。Icola chamber Choirなどのアンサンブルに所属。作曲家と演奏家による音楽集団、サウンド・パーティクルスを主宰。東京混声合唱団団員。



テノール / 音楽監督：村上 惇

taille : Atsushi MURAKAMI

東京学芸大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院古楽科修了後、渡仏。パリ地方音楽院古楽科でバロック声楽を、プーローニュ＝ビヤンクール地方音楽院古楽科で鍵盤通奏低音を学ぶ。ヴェルサイユ・バロック音楽センターでフランスバロック音楽を修め、ディプロムを取得。2015年の帰国後はオフィスフレンチバロックを設立し、演奏・執筆・講演活動などを通じてフランスバロック音楽の普及に努めている。



バス：下西 祐斗

basse : Yuto SHIMONISHI

東京生まれ。東京藝術大学声楽科を卒業後、2011年、東京混声合唱団に入団。ソリストとして、『レクイエム』（デュリュフレ）、『ベートーヴェン第九』等のバリトンソロを務める。またオペラでは『魔笛』パパゲーノ、『フィガロの結婚』フィガロ等を演じる。2022年より、東京混声合唱団バス・パートマスターに就任。



ヴィオール：折原 麻美

viole : Asami ORIHARA

国立音楽大学音楽文化デザイン学科卒。在学中ヴィオラ・ダ・ガンバを始め、卒業後渡欧。ブリュッセル王立音楽院古楽器科にて学部、修士、研究科を修了。ヨーロッパ各地の音楽祭出演等で研鑽を積み、2018年に拠点を日本に移す。ルネサンス～バロック音楽を中心に、世界各地の民謡、舞曲、童謡等ジャンルにこだわらず楽器の魅力を発信。アイゼナハ音楽院講師。www.oriharaasami.com



クラヴサン：中村 恵美

clavecin : Emi NAKAMURA

パリ国立地方音楽院を経て、パリ国立高等音楽院を卒業。アムステルダム音楽院でも学ぶ。帰国後は、ソロやチェンバロデュオ「デュオ・ミュゲ」の活動ほか、一噌幸弘氏、故江崎浩司氏、チェコフィルハーモニー弦楽四重奏団など様々なアーティストと共演している。2018年、CD「W. バード & Japan」をリリース。他に「デュフリ作品集」レコード芸術準特選盤、朝日新聞推薦盤などがある。http://www.emi-cembalo.com



ドローイング：飯嶋 桃代

artiste : Momoyo IJIMA

1982 神奈川県生まれ  
女子美術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程修了。  
現在、同大学非常勤講師。  
2014 「パランブセスト重ね書きされた記憶／記憶の重ね書き」  
北澤憲昭企画 gallery aM、東京  
2015 「Home Bittersweet Home—カケラのイエ」  
shiseido gallery、東京  
2021 『東京都美セレクショングループ展2021』  
「暗くなるまで待っていて」 東京都美術館/東京  
「TAMA VIVANT II 2021 —呼吸のかたち・かたちの呼吸—」  
多摩美術大学八王子キャンパスアートテークギャラリー1F、東京